

アフリカ現代美術 コレクシヨンの すべて

All of the African Contemporary Art Collection

Saka Acquaye, Anapa, El Anatsui,
Moustapha Dimé, Sokari Douglas Camp,
Ablade Glover, Abdoulaye Konaté,
Issa Samb, Pascale Marthine Tayou



ムスタファ・ディメ
《空想の動物たち》
1994年
撮影：上野則宏

2018.11.3sat » 2019.4.7sun
世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砩公園1-2 TEL:03-3415-6011 (代表)
https://www.setagayaartmuseum.or.jp/
展覧会のご案内 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

的な展示を行い、注目される。90年代後半以降は、ニジェール・デルタの油田開発による史上最悪の環境汚染を憂慮し、メッセージ性の強い作品も発表している。《私の世界 あなたの世界》は、そのように作家が表現の幅を広げた始めた頃の作品である。2003年には、トラファルガー広場の「第四の台座」で展示を行う作家候補の最終選考に残った。

アブラデ・グロヴァー | Ablade Glover | 1934-

ガーナの首都アクラに生まれる。同国第二の都市クマシのンクルマ科学技術大学美術学部で絵画を学び、1950年代末から70年代にかけてはロンドンや米国オハイオで学位を取得、帰国後は専ら母校で後進の指導に当たった。ガーナ美術界の第一世代サカ・アクエらに次ぐ、第二世代というべき位置にある。パレットナイフで絵の具を少しずつ画面に重ね、抽象と具象のあいだで揺れるような鮮やかな風景画を得意とする。《タウン・パノラマ》もそうした一点で、トタン屋根の小さな屋台がぎっしり並び人々がひしめき合う、西アフリカ最大級のクマシの市場が題材になっている。1990年代半ばに定年退職したのち、アクラ郊外でアーティスト・アライアンス・ギャラリーを運営、制作を続けながら、西アフリカのアーティストの作品を国内外で紹介することに尽力している。

アブドゥライ・コナテ | Abdoulaye Konaté | 1953-

マリの中ブクトゥ州ディレに生まれる。1972年より首都バマコの国立美術学校で絵画を学び、1978年からはキューバのハバナに留学。1985年に帰国後は、国立博物館に勤務しながら制作。仮面や神像をモチーフとする絵画を主に手がけていたが、1991年のクーデターで政治体制が刷新され、表現の自由が大幅に認められるようになると、政治的・社会的な問題を示唆する大胆なインスタレーション作品の発表を開始。《アフリカの力》は、作家のそのような転機を印す作品のひとつである。以後、マリ以外の西アフリカ諸国やヨーロッパなどで相次いで作品が紹介され、1998年サンパウロ・ビエンナーレ、2007年カッセルのドクメンタ、2008年光州ビエンナーレ、2009年ハバナ・ビエンナーレに出品。現在はバマコの国立美術学校長。

イッサ・サンブ | Issa Samb | 1945-2017

セネガルの首都ダカールに生まれる。ダカール大学で法律と哲学を修めたのち、同地のエコール・デ・ボザールで美術を学ぶ。1974年、映画製作者や劇作家とともに前衛的な芸術集団「ラボラトワール・アジタール」を結成。当時のセネガルで展開していた政府主導の美術振興策を批判し、ストリート・パフォーマンス、即興的なハプニング、ワークショップなど、芸術のジャンルを超える新たな表現を地域ベースで探った。サンブ自身も美術家・詩人・批評家・劇作家として多面的に活躍、自宅の庭を芸術家たちの集まりのために開放した。2009年ダカール・ビエンナーレ、2012年カッセルのドクメンタに出品。

パスカール・マルチーヌ・タユ | Pascale Marthine Tayou | 1967-

カメルーン西部のンゴンクサンバに生まれる。首都ヤウンデの大学で法律を学び、美術は独学。1990年代前半は、木片やベッコボル、空き缶、サンダルなど、都市の日常に溢れる雑多な廃品を寄せ集めてオブジェ制作していた。《トーム94》、《トーム94(女)》はそのような作家初期の作品である。その後カラーペンによるドローイングから、大規模で洗練されたインスタレーションに至るまで、多彩な手法とスケールによる作品を展開。旅、他者との遭遇といったテーマと密接に関わる作品が多い。活動を始めたごく初期から自身の名前を女性形で表記することで、性別をはじめ人種、国籍といった固定的なアイデンティティをさりげなく否定している。2002年カッセルのドクメンタ、2005年および2009年ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。パリでの活動を経て、現在はゲントおよびヤウンデを拠点に世界的に活躍している。

平成30年度ミュージアムコレクションⅢ
アフリカ現代美術コレクションのすべて
2018年11月3日発行
編集・発行：世田谷美術館
制作：株式会社美術出版社 デザインセンター
©2018 世田谷美術館 Setagaya Art Museum

サカ・アクエ | Saka Acquaye | 1923-2007

ガーナの首都アクラに生まれる。アチモタ教員養成学校で学び、その後アチモタ美術学校にて音楽、美術、工芸を学ぶ。1953年から59年まで渡米。フィラデルフィアのペンシルヴァニア美術アカデミーで彫刻とインダストリアル・デザインを学ぶかわたら、音楽グループ「アフリカン・アンサンブル」で活動し、「フィラデルフィアの黒人芸術運動の父」とされる舞踊家・振付家のアーサー・ホールらに影響を与えた。1964年に再渡米、カリフォルニア大学ロサンゼルス校にてオヘアと舞台芸術を学ぶ。他のアフリカ諸国より一足先に独立し、国民文化創成期に入ったガーナで、アクエは作曲家、劇作家としての仕事を数多く残した。その後は彫刻制作に集中し、アクラの公共空間や銀行、病院などのための重要なモニュメントを手がけた。ガーナの美術を担った第一世代。

アナパ | Anapa | 1962-

コートジボワール最大の都市アビジャンに生まれる。本名はアリスティード・アジ。1981年に国立美術学校に入学、建築を学ぶ。1987年の卒業後はアビジャンやその近郊の公立高校にて美術教師として勤務。1989年より絵画を独学で学ぶ。作家の母校である国立美術学校は、黒人精神の復興をめざす学生たちが1970年代半ばに芸術運動「ヴォウヴォウ」を起こしたことで知られ、アナパも影響を受けた。1991年、カメルーン出身の舞台美術家ベンダと出会う。黒人の宗教儀礼を演劇に取り入れたコートジボワールの演劇集団キーンボックの主要メンバーだった彼と組み、アナパはアビジャンの都市環境を題材に新たな表現形式を模索。《ルバ・フリーリング》は、同国の人気レゲエ歌手であったタンガラ・スピード・ゴダが1992年にヒットさせた曲の題名でもある。武道などによって身体を鍛え、盛り場の用心棒などに雇われる若者たちがルバと呼ばれていた。作家はこうしたアビジャンの若者たちのストリート・カルチャーに注目して制作を展開した。

エル・アナツイ | El Anatsui | 1944-

ガーナ南東部のアナヤコに生まれる。同国第二の都市クマシのンクルマ科学技術大学美術学部で彫刻を学び、1975年ナイジェリアに移住、同国南東部ンスカのナイジェリア大学美術学部で彫刻を教える。ガーナのアジャンティ王国時代の織物、また人生訓や言い伝えを記号化したアジングラなど、伝統に連なり、あるいは人々の日常に溶け込んだ対象から示唆を得て制作。1990年のヴェネツィア・ビエンナーレ出品の頃から国際的に注目を浴びる。《あてどなき宿命の旅路》は、使い古されたたくさんの木の臼を人物に見立て、アフリカ大陸に生きる人々の行く末を詩的に提示してみせた。90年代の傑作である。2000年代以降は、空き缶のふたなどを大量に集めてつなぎあわせ、ケンテクロスという儀礼的・象徴的な意味合いの強い伝統布を思わせる壮麗な作品を生み出している。2004年光州ビエンナーレ、2007年ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。2010年～11年には日本国内4都市を巡回する大規模な個展「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」が実現した。

ムスタファ・ディメ | Moustapha Dimé | 1952-1998

セネガル北部のルーガに生まれる。首都ダカールのエコール・デ・ボザールで彫刻を学び、西アフリカ一帯を放浪して各地の文化にふれたのち、過去に奴隷貿易の拠点だったダカール沖合のゴレ島に居住。浜辺に漂着した流木や、漁船を解体して得た木材などを利用して、半ば抽象的な人物や動物を制作。《ファラオ》、《空想の動物たち》もそうした作品のひとつである。ルーガの森林地帯で育った作家は「いつも森の神様といっしょに遊んでいた」といい、彫刻の素材として木にこだわったのも、森の神への感謝の念からであったとされる。1993年ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。1996年のダカール・ビエンナーレでは大規模な個展を要請されるなど実力を認められつつあったが、1998年に46歳で急逝。

ソカリ・ダグラス・キャンブ | Sokari Douglas Camp | 1957-

ナイジェリア南西部ニジェール・デルタのブグマに生まれる。英国人の義兄の計らいにより、ロンドンとカリフォルニアで美術を学び、以後現在に至るまでロンドンを拠点に、主にステールの彫刻を制作。作家が属するカラバリの社会では、女性が金属加工に携わることが禁じられているが、彼女は英米で溶接などの技術を身につけ、カラバリの習俗や祭礼をテーマにダイナミックな作品をつくってきた。1980年代末から90年代、博物館を主な舞台として人類学と現代美術をつなぐような先駆



①



②



③



⑦



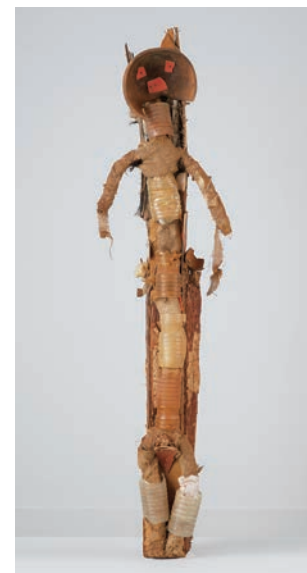
③



④



⑧



⑨



⑩

ミュージアム コレクションⅢ
Museum Collection III

アフリカ 現代美術 コレクション のすべて



⑤

- ① サカ・アクエ《ドラムを打つ男—陶醉》1988年 撮影：上野則宏
- ② アナバ《ルバ・フィーリング》1994年 撮影：上野則宏
- ③ エル・アナツイ《あてどなき宿命の旅路》1995年 ©EL ANATSUI 撮影：上野則宏
- ④ ムスタファ・ディメ《ファラオ》1994年 撮影：上野則宏
- ⑤ ソカリ・ダグラス・キャンプ《私の世界 あなたの世界》1997年 Sculpture made by Artist Sokari Douglas Camp
- ⑥ アブラデ・グロヴァー《タウン・パノラマ》1994年 ©Ablade Glover
- ⑦ アブドゥライ・コナテ《アフリカの力》1991年 撮影：上野則宏
- ⑧ イッサ・サンブ《彼らは立っている》1994年
- ⑨ バスカル・マルチーヌ・タユ《トーテム94》1994年
Courtesy the artist and GALLERIA CONTINUA, San Gimignano / Beijing / Les Moulins / Habana 撮影：上野則宏
- ⑩ バスカル・マルチーヌ・タユ《トーテム94 (女)》1994年
Courtesy the artist and GALLERIA CONTINUA, San Gimignano / Beijing / Les Moulins / Habana 撮影：上野則宏